

キ、卒業団体のフォローアップ調査

●業務目標

GEOC が実施する令和元年度、令和二年度又は令和三年度の地域循環共生圏プラットフォーム業務で環境整備、支援チーム派遣又は事業化支援を終了した活動団体のその後の取組の進捗の把握について、卒業団体のオンラインヒアリングを実施し、GEOC に報告するとともに、GEOC が実施する調査についても求めに応じて協力をする。

地域循環共生圏プラットフォーム事業全国事務局では、地域循環共生圏プラットフォーム業務の改善方策と過年度事業実施団体への継続的な支援内容を検討、活動団体と EPO/地方事務所間との継続的な関係性の維持・構築、情報交換の場づくりを目的に環境整備を終了した卒業団体のフォローアップ調査を行っている。

今年度は令和2年度・3年度に環境整備団体として活動した北九州環境ビジネス推進会(KICS)を対象に、直近の活動状況や今後の展望についてヒアリングを実施した。

行事名	卒業団体のフォローアップ調査
目的	地域循環共生圏プラットフォーム業務の改善方策と過年度事業実施団体への継続的な支援内容を検討するとともに、域内での活動団体と EPO/地方事務所間との継続的な関係性の維持・構築、情報交換の場として設計する。
開催日等	日時：令和5年1月31日(火) 16:00-7:00 会場：株式会社ウエルクリエイト 開催形態：ハイブリッド開催
概要	<p>1 参加者： EPO 九州、環境省地域政策課、九州地方環境事務所、いであ株式会社、GEOC</p> <p>2 質問事項</p> <ol style="list-style-type: none"> ① PF 事業前後での地域課題に対する考え方の変化 ② 成果物作成プロセスの印象やツールとしての活用事例 ③ 地域 PF で新たに創出した事業について ④ 新規事業立ち上げの経緯や事務局体制について ⑤ 活動団体へのメンバーの出入り、プロジェクトごとの人員について ⑥ 事業期間中に環境省や九州支援事務局からこういった支援があるとよかったと思うこと ⑦ 環境省や九州支援事務局への要望 ⑧ 環境省や九州支援事務局からこういった情報を入手したいか ⑨ 他の省庁で関心を持っている支援スキームについて ⑩ 現在 PF 事業に取り組んでいる団体やこれから取り組む団体にアドバイスをするとしたら

(2) 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

●業務目標

森里川海の連結性を確保するためには、民間等の取組により生物多様性の保全が図られている地域と国立公園等の保護制度により保護されている地域をネットワーク化し、保護区域の内外を問わないステークホルダーの連結性も確保していく必要がある。そのため、九州地方環境事務所において地域の自治体、企業、金融機関などを巻き込んだ情報交換会を開催し、これを支援する。

環境省では、地域の自然資源の活用や、それにつながる市民・企業レベルの取組へむけた普及啓発である「森里川海プロジェクト」を実施してきており、近年はこの取り組みを地域循環共生圏（ローカルSDGs）実現へつなげられるよう各地へ働きかけている。

今年度はセミナー企画とワークショップ企画を通じて「森里川海」の保全と活用に向けた地域プラットフォームのネットワーク化、ユースを中心とする担い手育成及び交流の場の創出を行った。

行事名	竹資源による自然と経済の循環セミナー
目的	放置竹林が生態系破壊につながっている事例は後を絶たず、全国的な問題になっている。竹資源を活用する企業・団体の事業事例をもとに、竹の有効活用・経済化、竹林の適正な伐採・管理モデルを提示し、多面的な生態系保全に寄与する。同時に事業者ならびにPF 団体等とのネットワークの形成を図る。
開催日等	日時：令和4年12月7日（水）14:00-16:20 会場：熊本市国際交流会館4階第3会議室 開催形態：ハイブリッド 主催：九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス
概要	参加人数：74名（現地参加27名、オンライン参加47名） プログラムでは、基調講演として福岡大学工学部社会デザイン工学科の佐藤研一教授から竹の経済的な友好利用について最新事例を含めたビジネスモデルに関する講話を行った。 続いて、竹資源の活用に取り組む3つの企業・事業者からそれぞれ農業資材利用・食品利用・消費財としての利用について報告し、先進取り組みとして事例を共有した。次に、佐藤教授をファシリテーターとして登壇者3名を交えたパネルディスカッション及び出席者参加型の意見交換会を実施し、来場者の疑問・課題に対して直接のアドバイスを行った。 このセミナーでは、登壇者の事業による竹活用製品を展示するハンズオンブースを設置し、メンマの試食や竹ストローの試用を行うことで参加者の交流を促した。結果として、竹資源活用における伐採現場と活用事業者での意識のすり合わせや、竹を迷惑なものではなく資源として見る意識の醸成、製品活用の可能性の提示など、複数の効果を生む場となった。

	<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会・趣旨説明 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 西田 壮宏 氏 2. 基調講演「竹の新しい利活用について」 福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授 竹イノベーション研究会 代表 佐藤 研一 氏 3. 事例紹介 <ol style="list-style-type: none"> ① 大和フロンティア株式会社 代表取締役 田中 浩一郎 氏 ② 一般社団法人九州循環共生協議会 理事 山村 公人 氏 ③ 株式会社アミカテラ 代表取締役会長 増田 厚司 氏 4. 意見交換
写真	

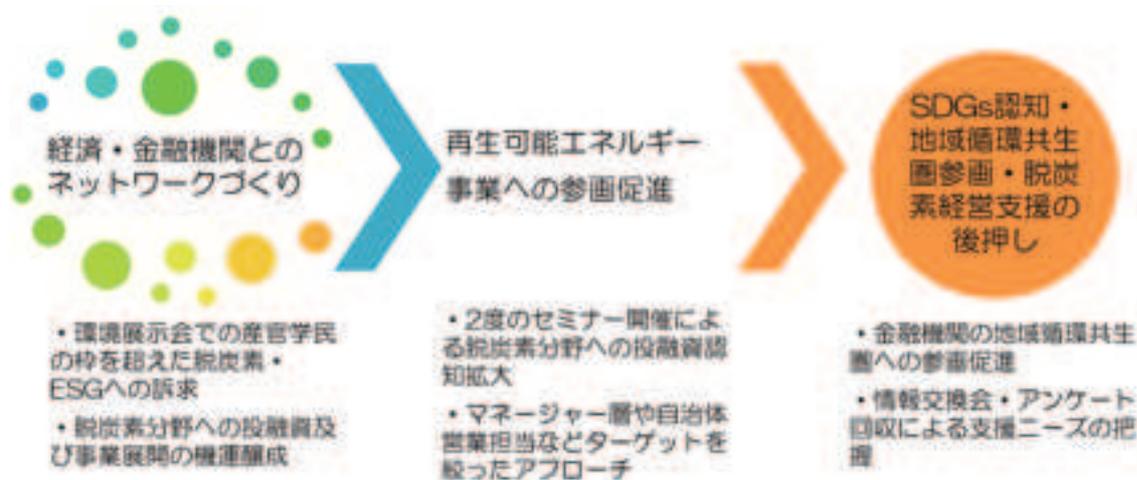
行事名	みんなが主役！森づくりユースワークショップ
目的	<p>森林活用や生態系保全に関心のある地域のユース世代に、森づくりをテーマとしたカードゲームワークショップを通じて森林の保全と活用について考える場を創出する。また、同時にユース世代同士の交流や、地域人材として地域循環共生圏プラットフォーム活動団体との交流を促進する。</p>
開催日等	<p>日時：令和5年2月18日（土）13:15-16:30 開催形態：対面 主催：九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス</p>
概要	<p>参加人数：11名</p> <p>株式会社プロジェクトデザインによるビジネスカードゲーム「moritomirai」は、持続的に森林価値を守り、楽しみながら森林の現状や持続的活用に関して理解できるツールとして開発、全国で体験会が行われている。</p> <p>本イベントでは趣旨説明ののち株式会社プロジェクトデザインの武井氏から森林の保全と利用に関する基本的な情報提供ののち、武井氏をファシリテーターとして「moritomirai」体験会を実施した。</p> <p>体験会終了後も振り返りを行い、インプットだけでなく参加者の学んだこと、考えたことをアウトプットする時間を設けたことで、学びとともに参加者の交流促進、また行動変容に至る意識変容を促した。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会・趣旨説明 九州地方環境パートナーシップオフィス 澤 克彦 2. 話題提供

	<p>株式会社プロジェクトデザイン マネージャー 武井えみり氏</p> <p>3. カードゲーム「moritomirai」体験会、振り返り</p> <p>株式会社プロジェクトデザイン マネージャー 武井えみり氏</p>
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに参加させていただき、自ら気付く点がカギとなっていて非常に面白かったです。様々な職種のプロフェッショナルが意見し合う場所に参加したことに意味があると思った。 ・ゲーム内での、役割、目的の設定を通し、他のプレイヤーとのコミュニケーションがはかられ、その重要性が理解できた。またコミュニケーションの練習ツールとしての可能性も感じた。 ・自分の目標だけを目指すのではなく、他の役職の方と意見をシェアして協力することが大事。
写真	

(3) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

●業務目標

地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。昨年度実施した北九州地域と熊本地域での勉強会の枠組みを生かし、更なる連携強化を目指す。



ア、地域金融機関等と連携した情報交換会等の開催

①ローカル ESG×地域脱炭素セミナー

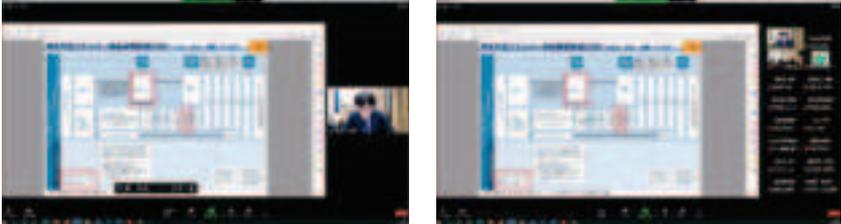
行事名	脱炭素×地域金融セミナー ローカル ESG が切り拓く未来
開催日等	<p>日時：令和4年7月7日（木） 10：30-12：20 会場：北九州市西日本総合展示場 エコテクノ展セミナーB会場 開催形態：ハイブリッド 主催：九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス</p>
目的	<p>2050年カーボンニュートラル、2030年までに温室効果ガスの46%を削減するという野心的な目標に向け、脱炭素の取り組みをあらゆる地域、あらゆる分野で推進していく必要がある。</p> <p>昨年度は九州地域の金融機関を対象としたセミナー・意見交換で緩やかなネットワーク形成を行ったが、本セミナーでは西日本最大の環境展示会「エコテクノ」にて金融機関だけでなく多くの主体にSDGsと地域金融によるESG投資に関する現況と課題・今後の展望について共有する。</p>
概要	<p>出席者：63名（会場25名、オンライン38名） 内容：事業者・自治体関係者を含む多様な主体に対してESGや脱炭素に関する取組の認知を拡大するため、環境展示会「エコテクノ」参加者を中心に、企業がSDGsに取り組む意義、また地域金融機関がESGに取り組むメリット等を発信するセミナーを開催した。</p> <p>基調講演として長崎大学経済学部の山口准教授から、SDGs達成に向けた取り組みを行う事業者の事例と社会的な意義について説明し、株式会社さぎんコネクトの太田氏より自社の地域課題解決型の取り組みについて事例を共有した。地域脱炭素創生室から環境省の支援策を紹介したのち、登壇者によるトークセッションにより協働での課題解決の重要性を呼びかけた。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 講演 <ul style="list-style-type: none"> 「SDGsと地域金融機関への期待」 長崎大学経済学部 准教授 山口純哉 氏 「ローカルSDGsビジネス確立に向けた 佐賀銀行グループの取組について」 株式会社さぎんコネクト アシスタントマネージャー 太田紹彦 氏 「脱炭素に関する環境省の取り組み・ 支援策の鍵を握るESG地域金融」 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長 上迫大介 氏 3. 鼎談・トークセッション ファシリテーター 九州地方環境パートナーシップオフィス 澤 克彦 4. 閉会

アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> • いいことにチャレンジしても知られない限り、一般的に高額となり採算が難しい。いいことにチャレンジし続けられる体力もある程度必要。 • 今回は SDGs の基礎編と思いましたのでぜひ中級、上級編を期待しています。 • 地域でこれまで知らない情報を得る事ができました。国、行政だけでなく今後ローカルな情報も知るサイトや機会が増えると良いと思います。 • 非常に参考になりました。こういったセミナーに官は積極的に参加して、民と協働することが重要だと思います。
写真	

②地域金融機関向け脱炭素基礎セミナーセミナー

行事名	基礎から学ぶ！地域脱炭素スタートセミナー
主催等	主催 九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス
目的	地域脱炭素の実現に向け、地域金融機関職員を対象とした脱炭素の潮流の把握や案件形成に向けたノウハウ向上を目的とし、地域金融機関の抱える脱炭素関連事業に対する課題解決を図る。
概要	<p>日時：令和4年10月21日（火） 13:00-14:30 開催形態：オンライン開催 参加者：60名 内容： 地域脱炭素関連事業や地域 ESG 金融に積極的でない地域金融機関のマネージャー層を対象に、地域での脱炭素金融や再エネ事業に取り組む意義やメリットについて提言した。</p> <p>基調講演として三井住友信託銀行の金井氏から ESG 金融の世界的な潮流や再エネ事業への投融資の事例と展望について説明し、その後九州地方環境事務所と九州経済産業局からそれぞれの省庁による支援策を説明した。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長 上迫大介 氏 2. 講演 「地域における脱炭素金融推進のポイント」 三井住友信託銀行 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 金井司 氏 3. 情報提供 ①地域脱炭素に係る支援策について 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 中原夢楽咲 氏 ②金融機関の皆様を知って頂きたい 脱炭素支援策等について 九州経済産業局 資源エネルギー環境課 樋口一郎 氏 4. 総括 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長 上迫大介 氏

③地域金融機関再エネケーススタディ

行事名	地域金融機関のための再エネ基礎セミナー
主催等	主催 九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス
目的	地域脱炭素の実現に向け、地域金融機関の職員が再エネ事業の投融资に対して適切な判断をできるようになるため、再エネの正しい基礎知識を得ることで、案件形成につながるきっかけを創出する。
概要	<p>日時：令和4年11月25日（金） 13:00-14:15 開催形態：オンライン開催 参加者：39名</p> <p>内容：これから再エネ事業への参画・投融资を検討している地域金融機関の企業向け営業担当部署・自治体向け営業部署を対象に、九電みらいエナジーの白須氏から最近の再エネに関する潮流や再エネ種別ごとの案件形成時の課題と対応について説明した。</p> <p>再エネ事業者から金融機関の営業担当者に向けて案件形成の実例を説明することで、担当者レベルでの地域 ESG に対する実感値を高めることができた。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長 上迫大介 氏 2. 話題提供 2050年カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギー事業の動向 九電みらいエナジー 取締役経営企画部門長 白須慎一郎 氏 3. 質疑応答 4. 閉会
写真	

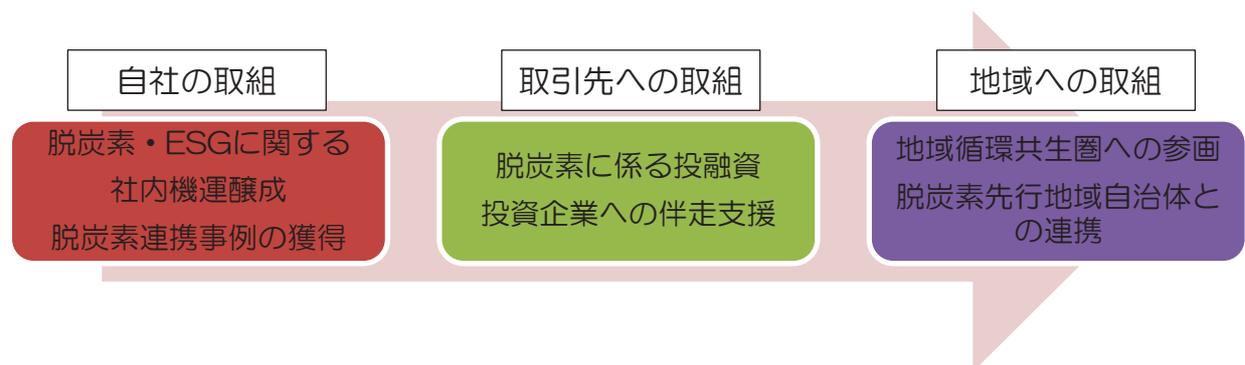
④打合せなどの実施状況

打合せ	6月30日 エコテクノ展セミナー打ち合わせ（オンライン）
	7月29日 企画打ち合わせ 地方事務所、EPOにて企画打合せ
	9月16日 再エネ基礎セミナー打ち合わせ（オンライン）
	10月13日 再エネケーススタディ打ち合わせ（オンライン）
全国事務局 情報交換会	12月23日 基盤強化事業後継事業に関する意見交換（オンライン）
	3月16日 基盤強化事業後継事業に関する意見交換（オンライン）

イ、成果・検討事項

<p>獲得された 成果</p>	<p>昨年度から主に金融機関向けに、地域脱炭素や再生可能エネルギーにかかる最新動向や ESG 投資の九州における先行事例を中心に取上げたセミナーを開催している。本年度は金融機関のみならず自治体、企業も含めた機運醸成の機会として環境展示会「エコテクノ」でのセミナーを実施し、多様な油鯛の地域循環共生圏への参画を促進する機会を創造した。また、再生可能エネルギーに関する投融資をテーマとした2度のセミナーではターゲットをそれぞれ金融機関のマネージャー層と企業・自治体向け営業担当者に絞り、より濃密でハイレベルな情報を提供した。</p> <p>上記のような取り組みの結果、過年度からセミナーへの参加者数が伸びており、地域循環共生圏と脱炭素、地域の持続可能な事業のための投融資について、より多くの人に情報を届けることができた。</p> <p>○地域金融機関との関係基盤構築による地域循環共生圏の推進活性化 金融機関に脱炭素・ESGに関する情報とともに地域循環共生圏の考え方を共有し、金融機関が参画する意義と地域での役割について周知する場を創出した。また、プラットフォーム活動団体と金融機関の接続事例を紹介したことで、今後も新たな連携事業の創出も期待される。</p> <p>○地域金融機関の課題意識・事業化ハードルの整理 セミナー後のアンケートを通じ、地域金融機関が脱炭素社会の主体として活動するうえでの課題や障壁となるポイントについて可視化することができた。</p> <p>○地域における ESG 投資意欲の醸成 地域での事例やメソッドの共有に加え、国の支援策紹介による参加メリット、情報付加価値の提示により地域金融機関の ESG 投資意欲を高めた。また、小規模な地域金融機関に対する学びの場の提供の場として機能した。</p>
---------------------	--

地域金融機関による地域金融・経済を巻き込んだ展開の流れ



4. ESD 活動支援センター運営業務

地域循環共生圏を推進するESDネットワーク

- ・ ESDネットワークによる地域循環共生圏担い手育成の促進

●業務目標

SDGs を活用した地域課題の解決に向けての取組の促進、モデル事例の創出

(1) ESD コンシェルジュ活動

近年 EPO 九州及び九州 ESD センターには、自治体主催セミナー、企業内研修、大学や専門学校、高等学校のキャリア教育等、SDGs の理解を深める場づくりについて、九州・沖縄の各主体から相談が寄せられている。

全体の相談案件の傾向として、SDGs の周知とともに すべての市民に SDGs の目標達成に向けて行動できる機会があることを、各主体に適した形で分かりやすく伝える「自分ごと化」への手法が特に求められるようになった。

ア、情報の収集及び発信

●ESD 推進支援と SDGs の担い手育成に繋がる情報提供の成果

九州 ESD センターの Web サイトにて、ESD 実践者のニーズに対応して、活用できる教材の情報や、活動に利用できる助成金情報等を収集し、地域の ESD 推進に有用なコンテンツとして発信した。このような運営に加え、環境行政分野等 EPO 九州の持つ情報チャンネルを加えた鮮度の高い情報発信を通年行った。

また Web サイトと並行して SNS を活用し、Facebook と Instagram により、新たなターゲットへの開拓、ピンポイントな発信、周知を実践した。

掲載にあたっては、多様な分野（多文化共生、青少年教育、島しょ活動）からの発信を行っており、センターの活動周知や情報の発信を端緒とした相談対応、また具体的な相談者への支援活動にも繋がっている。

Web サイトの運営、SNS、メールマガジンの発行では、九州センター活動情報に加え、地域 ESD 拠点の活動、ESD 教材、助成金制度、セミナー情報等多様な情報を収集、発信することで、幅広いニーズに対応する有効な支援体制の基盤整備を行った。

イ、ESD 活動に関する相談・支援窓口

●業務目標

多様な主体からの ESD 活動に関する相談に対応することにより、ESD の普及啓発や地域ぐるみの ESD を支援する。

教育関係者、行政、NPO 等の多様な ESD 実践者からの相談に対応し、資源連結を行いながら、必要に応じ企画運営委員や専門家と連携し対応を行った。

そしてこれまでの九州 ESD センターの支援内容等から、教育現場の活動における課題解決に向けたプロセスを具体的に示したほか、相談対応を通して、団体や学校での先進的な ESD 事例について情報を収集した。

また、対話の場、研修運営をとおして多様な学校現場のニーズに応じた企画提案力の向上など、地域ぐるみの ESD 活動を横展開するにあたっての知見が蓄積された。

これらの相談・支援活動から実践者が抱える課題やニーズが明確となり、有効な支援活動の展開に寄与した。

相談者	一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団		
相談概要	講師対応依頼	初回相談日	令和4年3月28日
相談内容	<p>今年度第17回を迎える高校生を対象としたボランティアワークキャンプの実行委員に対し、アドバイザーを担当いただくほか、学生に対して第一回のミーティングにおける環境分野に関するレクチャーをいただきたい。</p> <p>■対応 高校生が主導する分科会のうち「地球温暖化と海」の計画について助言や講師紹介を行ったほか、当日のワークショップ運営を支援した。</p>		
対応概要	<p>行事名：第17回国際ボランティアワークキャンプ in ASO 日時：令和4年8月12日-14日 会場：国立阿蘇青少年交流の家 事務局：一般財団法人熊本市国際交流進行事業団</p> <p>プログラム 1. アイスブレイク 2. 気候変動に関するクイズ 3. 一般財団法人日本キリバス協会 ケンタロ・オノ氏による講演 4. SDGs カードゲームの実施</p>		
写真			

相談者	日本キリバス協会		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年4月4日
相談内容	<p>広く協会の取組について知っていただき、九州 ESD センターとの連携可能性についてご相談したい。</p> <p>■対応：熊本県玉名市との連携ほか、各事業にて連携を継続する。</p>		

相談者	鹿児島県内のウェブ制作事業者		
相談概要	情報提供依頼	初回相談日	令和4年4月20日
相談内容	<p>環境省と日本財団に依る海洋ごみ対策共同事業キャンペーンに関わる。鹿児島県阿久根市の大川島海水浴場で、春開催の清掃活動を実施する。その活動の中で、海洋プラスチックや気候変動に関する講師対応を行うが、参考とできる資料などはあるか。</p> <p>■対応：九州各県、ならびに環境省による海洋プラスチック問題、気候変動問題に関する小学生向け教材資料をまとめて紹介。今後も薩摩半島でのご活動について情報共有を依頼した。</p>		

相談者	大分県内の教育・研究機関		
相談概要	情報提供依頼	初回相談日	令和4年4月22日
相談内容	<p>あらき川流域プロジェクトにおいて、地域の子どものための環境への関心を喚起する「環境図書館活動」を行っている。活動に関して書架の購入に適應できる助成制度を知りたい。</p> <p>■対応：収集・発信した情報に基づき、書架調達に適用が可能と思われる助成制度を紹介した。</p>		

相談者	一般社団法人雲仙観光局		
相談概要	講師対応依頼	初回相談日	令和4年4月27日
相談内容	<p>現在子どもたちを対象としたSDGs イベントを企画検討している。可能な範囲で、講師対応、資料提供などの協力を得たい。</p> <p>■対応：イベント趣旨等に基づき、九州 ESD センターから企画提案を行い、検討をいただく。</p>		

相談者	雲仙諏訪の池ビジターセンター（一般社団法人雲仙観光局）		
相談概要	情報提供依頼	初回相談日	令和4年4月27日
相談内容	<p>先行的な ESD 事例として大牟田市教育委員会の取り組みに関心を持っており、講師紹介をいただけないか。また大牟田市での ESD 事例を拝聴できるようなセミナーがあれば案内いただきたい。</p> <p>■対応：収集・発信した情報に基づき、今年度募集中のセミナー等を継続して案内した。</p>		

相談者	東京都内の NGO		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和 4 年 4 月 27 日
相談内容	<p>毎年、市民活動、環境、国際関係、世界経済に関する講座を 20 講座程度開催している。今年度も対面、オンラインによる講座参加者を募集しており、情報発信においてご協力いただきたい。</p> <p>■対応：九州 ESD センター Web サイト、SNS、メールマガジン等で周知協力した。</p>		

相談者	熊本県内の教育委員会		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和 4 年 5 月 6 日
相談内容	<p>市として ESD を推進体制を整備している。行政の SDGs 未来都市推進室と連携し、高等学校と連動した教育活動を実践していきたい。中澤先生によるマスターティーチャープログラムには、市内すべての学校から受講を予定している。情報交換の面から、九州 ESD センターと連携を強化していきたい。</p> <p>■対応：ESD について先進的な実践を行う自治体であることから、今後も情報交換と連携を行う。</p>		

相談者	北九州 ESD 協議会		
相談概要	意見交換	初回相談日	令和 4 年 5 月 6 日
相談内容	<p>4 月から企業を休職の上、北九州 ESD 協議会事務局長へ就任。GreenGift だけではなく、ESD 推進に関する情報交換を強化したい。</p> <p>■対応：地域 ESD 活動推進拠点に登録いただいているほか、RCE 等 ESD の先進地域となる北九州市での実践について今後も情報交換を行う。</p>		

相談者	熊本県子ども会連合会		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和 4 年 5 月 12 日
相談内容	<p>熊本県子ども会連合会は、熊本市以外の県下 31 市町村における子ども会による組織として、2 年前から SDGs 推進に取り組んでいる。今年度の各子ども会研修企画の相談先として、九州 ESD センターを紹介したい。また熊本県内の環境教育団体とのネットワーキングの場などがあればご紹介いただきたい。</p> <p>■対応：定期総会にて九州 ESD センターに関する資料を配布していただくほか、センターを相談先として紹介いただく。また、ESD に関するネットワーキングの企画について積極的に案内し参加を呼びかける。</p>		

相談者	日南市教育委員会		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年5月17日
相談内容	<p>宮崎県による持続可能な社会の実現に関する環境教育推進事業に油津中学校が指定された。授業展開等について、情報交換、協力をいただきたい。</p> <p>■対応：県の事業内容についてヒアリングを行ったほか、指定された中学校担当者をご紹介いただき、意見交換を行った。</p>		

相談者	日南市立油津中学校		
相談概要	講師対応依頼	初回相談日	令和4年5月24日
相談内容	<p>今年度「持続可能なみやざきづくりを実現する環境教育推進事業」に油津中学校が選定された中学3年生2クラスを対象に環境教育の計画を立案中であり、地域内のバイオマス発電所や風力発電施設を視察予定。6月9日、午後からの2時限についてZOOMでSDGsの基礎講座を依頼したい。一年間をかけて環境教育の実践を行いたいと考えており、キックオフの場を想定している。</p> <p>SDGsと環境問題に関して、生徒対象の講師対応をお願いしたい。</p> <p>■対応：中学校教諭と打ち合わせを行い、学校の周辺環境や近年のSDGsに関する潮流を導入し、講師対応を行った。</p> <p>日時：令和4年6月9日 会場：オンラインにて実施 内容：生活とSDGsの関わり・宮崎県4R活動・海洋環境保全等</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		

相談者	JICA 地球ひろば		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年5月25日
相談内容	<p>JICA 地球ひろばが主催する国際理解及び開発教育指導者研修について、九州沖縄地域への発信にご協力をいただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWeb サイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	琉球大学国際地域創造学部 准教授		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年5月31日
相談内容	<p>理事を務める一般社団法人やんばるビジョンの、地域 ESD 拠点登録を検討している。様式やプロセスを確認し近日中に申請を行いたい。</p> <p>■対応：地域 ESD 活動推進拠点登録制度について概要を説明し、登録様式を送付した。その後、団体より申請が行われ拠点登録となった。</p>		

相談者	熊本県内の高校生		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年7月9日
相談内容	<p>国際コースのグループワークとして、社会課題について国内外の実情についてレポートを予定している。「フードロス」をテーマとしており、日本と海外の課題・対策の違いを中心にお話をお聞きしたい。</p> <p>■対応：令和4年8月9日、生徒来所の上、意見交換並びに情報提供を行った。</p>		

相談者	大牟田市教育委員会 学校教育課 指導室		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年7月12日
相談内容	<p>九州 ESD センターに対し、大牟田市教育委員会が8月20日に主催する「令和4年度ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会」への共催依頼を行いたい。</p> <p>■対応：依頼に基づき、交流会共催に関する各対応を行ったほか、九州 ESD センターから出席対応した。</p>		

相談者	福岡県内の高校生		
相談概要	情報提供依頼	初回相談日	令和4年7月19日
相談内容	<p>ESD に関するポスター発表を予定しており、ESD の発信や活動の影響、支援内容や成果に付いて伺いたい。</p> <p>また高校生が ESD の推進のためにできることはあるか知りたい。</p> <p>■対応：資料提供を行ったほか、記載内容について監修を行い、生徒作成によるポスター掲示が行われた。</p>		

相談者	熊本市立二岡中学校		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年8月25日
相談内容	<p>家庭科教育に関する研修集会が R5 年度開催されるにあたり、研究授業に着手している。SDGs の視点をもとにした生徒の学習成果についてコメント・助言をいただきたい。</p> <p>■対応：令和4年10月6日、中学校にて授業見学を行い、担当教員との意見交換を行った。また、城南中学校で取り組むキャリア教育での SDGs 活用についても助言をいただく機会とした。</p>		

相談者	水俣環境アカデミア		
相談概要	講師対応依頼	初回相談日	令和4年9月7日
相談内容	<p>令和4年10月22日に開催するシンポジウム「SDGs 実現に向けた人材育成」へ、九州 ESD センターからパネリストとしての登壇依頼をしたい。</p> <p>■対応 シンポジウム開催にあたり、登壇対応を行った。</p> <p>日時：令和4年10月22日 場所：水俣環境アカデミア（水俣市） 内容： 基調講演 テーマ「日越大学の人材養成と SDGs」 古田 元夫氏（日越大学学長、東京大学名誉教授）</p> <p>パネルディスカッション テーマ「SDGs の達成に向けた人材育成～地方都市・水俣から人材育成を考える～」 ●コーディネーター 篠原 亮太氏（熊本県環境センター館長、熊本県立大学名誉教授）</p> <p>●パネリスト 高岡 利治氏（水俣市長） 植原 啓介氏（慶應義塾大学教授） 菅 浩氏（熊本県立水俣高等学校長） 澤 克彦（九州地方 ESD 活動支援センターコーディネーター）</p> <p>●コメンテーター 古田 元夫氏（日越大学学長、東京大学名誉教授） 古賀 実（水俣環境アカデミア所長、熊本県立大学名誉教授）</p>		

相談者	東京都内の一般社団法人		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年9月28日
相談内容	<p>今年度多文化共生をテーマにした教員対象研修プログラムについて、地域内の教育機関向けの発信に協力いただきたい。</p> <p>また、別途開発教育に関するオンラインセミナーについても、九州沖縄地域から参加をいただければと考えている。</p> <p>■対応： Web サイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	特活 NGO 福岡ネットワーク（FUNN）		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年10月1日
相談内容	<p>FUNN 主催による「日本の SDGs 実施指針改定に向けた勉強会」を予定している。九州、沖縄地域の地域 ESD 拠点、ならびに関係者の参加を募っており、発信に協力いただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWeb サイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	大分県内の野外教育施設		
相談概要	情報提供依頼	初回相談日	令和4年10月6日
相談内容	<p>体験活動における座学の一環として小学生を対象にSDGs講話を行う。小学生を対象にしたSDGs学習動画を提供してもらいたい。特に海の環境保全をテーマとしたものが望ましい。</p> <p>■対応 収集・発信した教材に関する情報から、相談に適した情報を選定して相談者へ案内した。</p>		

相談者	熊本市教育委員会		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和4年11月4日
相談内容	<p>熊本市立必由館高等学校が、文科省の高等学校改革推進事業に採択されコンソーシアムを構成することとなった。については、同コンソーシアム構成員としてESDセンターに協力願いたい。また、同事業の運営指導委員への就任もあわせて依頼したい。</p> <p>■対応：九州ESDセンターとして、コンソーシアムに参加し、推進事業の運営指導委員に就任した。 また、構成員として定期的なコンソーシアム会議への出席を行った。</p>		

相談者	熊本県内の中学校 校長		
相談概要	意見交換	初回相談日	令和4年11月10日
相談内容	<p>中学校でのESD指導方針について相談したい。大牟田市の公立小中学校への視察を検討している。</p> <p>■対応：来所の上、各ESD資料を基に九州ESDセンターの支援概要について説明した。今後も情報交換を行う。</p>		

相談者	熊本県内の高校生		
相談概要	意見交換	初回相談日	令和4年11月19日
相談内容	<p>ESDについて大学で学ぶため、北九州市立大学地域創生学群を志望している。ESDの概要について話を聞きたい。</p> <p>■対応：相談者来所の上、北九州市立大学のESDへの取り組みについて情報提供を行った。</p>		

相談者	熊本県立菊池農業高等学校		
相談概要	講師対応依頼	初回相談日	令和4年10月3日
相談内容	<p>今年度、1年生、または2年生有志を対象としたSDGs研修の検討を行っている。過年度実施した内容で、学校の学びと連動したSDGs講師対応を依頼したい。熊本県スーパーハイスクール（KSH）構想県指定校事業に参加しており、SDGsとの関連についてもインプットしていただきたい。</p> <p>■対応 行事名：令和4年度KSH構想県指定校事業 持続可能な開発目標研修会 日時：令和4年12月7日（水）9:05-11:15 会場：熊本県立菊池農業高等学校 体育館（菊池市） 対象：2年生5学科109名、職員（推進委員会）</p> <p>目的： （1）専門科目での学びにおいて地域社会や産業界と協働し、地域課題解決等のための実践力を身に付ける。 （2）持続可能な開発目標（SDGs）について学び、目標の達成に向けて菊池農業高校全体として、また、個々の生徒でできる取り組みについて考える。 （3）本事業およびSDGsの学習活動をより充実させ、効果的な実践内容にするため、推進委員をはじめ職員を対象にした、専門家による相談および助言の機会とする。</p> <p>内容：SDGsの基礎事項・農業の持続可能性・KSHとの関連</p>		
写真			

相談者	（公財）日本環境協会		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年11月21日
相談内容	<p>協会では全国の子どもたちの環境活動を支援する「こどもエコクラブ」を運営。こどもエコクラブによる、全国一斉活動として防災・減災をテーマにした「おうちでBosai×Eco CAMP」をスタートしており、家庭でできる防災プログラム冊子を無料送付している。また、こどもエコクラブでは毎年日頃の活動を壁新聞等にまとめる「全国エコ活コンクール」も実施しており、併せて周知にご協力いただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	公益財団法人 再春館「一本の木」財団		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年11月21日
相談内容	<p>熊本県内の体験活動、環境保全活動を行う団体向けに年度内に2回の助成募集を行っている。令和5年度上期の公募を開始しており、広く熊本県内の活動団体へ本制度を周知したい。</p> <p>■対応：九州センターWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	九州大学基幹教育院 次世代型大学教育開発センター		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年11月24日
相談内容	<p>所属する基幹教育院次世代型大学教育開発センターが環境省と協働して開催する研修会の広報について検討している。12月22日九州大学・伊都キャンパスにて、「環境省『ぐるぐるプロジェクト』とのコラボレーションでつくる学際的な授業」を開催。環境省が持つ教育に役立つ情報・コンテンツについて共有し、学際的な授業についての提案を行う。大学教職員、大学生・大学院生のみならず、高校教職員の方にもぜひご参加いただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	宮崎市教育情報研修センター		
相談概要	講師対応依頼	初回相談日	令和4年11月30日
相談内容	<p>令和5年度上半に宮崎市内の小中学校担当教諭を対象とした、SDGs研修を予定している。九州ESDセンターから講師を担当いただきたい。</p> <p>■対応 教育情報研修センター訪問の上、次年度の計画として、調整を継続した。</p>		

相談者	独立行政法人		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年12月19日
相談内容	<p>連続開催中の開発教育オンラインセミナーについて、第6回を1月21日に開催予定。今回の開催について、広く九州からも参加を募りたい。地域内の関係者への情報発信について、協力をいただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		
相談者	北九州ESD協議会		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年12月23日
相談内容	<p>連続企画として実施している「ツキイチの集い」での地域防災セミナーの発信を依頼したい。今回は九州沖縄をもとより、全国各地の参加をいただきたいと考えており、協力いただきたい。</p> <p>■対応：九州ESDセンターのWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知に協力したほか、スタッフが出席し、意見交換に対応した。</p>		

相談者	大分県地球温暖化防止活動推進センター		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和4年12月24日
相談内容	<p>開催予定の「おおいた地球温暖化防止推進大会2022」の発信について発信協力を依頼したい。</p> <p>■対応：九州ESDセンターのWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力したほか、温暖化防止活動推進分野について情報交換を継続する。</p>		

相談者	大分県内の高等学校		
相談概要	意見交換	初回相談日	令和5年1月25日
相談内容	<p>マイクロプラスチックに関する学校内プロジェクトチームの研究成果について意見をいただきたい。生徒自身が外部からの声について関心を持っており、環境課題や実業系高校の学びのあり方について意見交換を行いたい。</p> <p>■対応：研究成果資料を受領し、ESDの観点から所感を加えて回答を行った。実業系高等学校の学びについて今後も担当教員と情報交換を行う。</p>		

相談者	NGO 福岡ネットワーク		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和5年2月4日
相談内容	<p>国際協力をテーマとした連続企画、NGOカレッジについて地域のSDGsや持続可能性について関心を持つ層に周知を行いたい。情報発信について協力をいただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	再春館一本の木財団		
相談概要	発信の協力	初回相談日	令和5年2月9日
相談内容	<p>次年度に実施する「再春館一本の木キッズクラブ」の参加者を募集している。熊本県内で環境活動に関心がある児童に広くアプローチしたいことから、情報発信について協力いただきたい。</p> <p>■対応：九州センターWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p>		

相談者	熊本市立天明中学校 校長		
相談概要	意見交換	初回相談日	令和5年2月9日
相談内容	<p>令和9年度から義務教育学校として、西区内の複数の小中学校が一貫校として統合される。この流れの中、一部の教員間連携ではあるが、地域への愛着や活力に富む児童の育成について、「天明教育プラン」の策定を目指している。このプランの中にはESDの推進を位置付けており、9年間を通したカリキュラムデザインを検討しており、九州ESDセンターからの助言をいただきたい。</p> <p>■対応：学校を訪問の上、学校長より教育プランについての説明をいただき、九州ESDセンターの活動と関連して意見交換を行った。</p>		

相談者	熊本県立熊本農業高校		
相談概要	意見交換	初回相談日	令和5年2月22日
相談内容	<p>豚の屠畜の際に発生する豚脂を活用した商品開発の取り組みを行っている。当校取り組みや地域の他事例について意見交換したい。</p> <p>■対応：担当教員、生徒来所の上意見交換を実施した。取り組みについては、ユース環境活動発表を始め、多数の顕彰制度に応募、受賞の成果が上がっており、今後も担い手育成の観点から情報交換を継続する。</p>		

相談者	福岡県立社会教育総合センター		
相談概要	活動協力依頼	初回相談日	令和5年3月10日
相談内容	<p>人材バンクとして社教センターが開設している「ふくおか社会教育ネットワーク」に登録を検討してほしい。セミナーで九州ESDセンターから登壇いただいた経緯もあり、他分野で活動する人材として講師依頼をいただきたい。登録以降は、閲覧者が講師情報をもとにESD、SDGs分野での講師依頼を行う。</p> <p>■対応：福岡県内のネットワーキング拡大のため、九州ESDセンター職員として登録に対応した。</p>		

相談者	大分県内のNPO法人		
相談概要	情報提供依頼	初回相談日	令和5年3月10日
相談内容	<p>大分県内の高等学校教員から、SDGsや気候変動について生徒自身が挑戦できる検定制度についての紹介依頼があった。当団体でもユース連携を進めており、活用できる制度があれば教示いただきたい。</p> <p>■対応：収集・発信した教材に関する情報から、相談に適した情報を選定して相談者へ案内した。</p>		

ウ、九州地方 ESD 活動支援センターの後援・共催行事

①後援

開催日	行事名	都道府県	会場	主催
8月23日- 3月31日 (募集期間)	第14回環境教育ポスターコンクール	東京都	東京都内 (表彰式)	公益財団法人 こども教育支援財団
9月1日- 3月31日 (募集期間)	南極・北極 SDGs 探究学習コンテスト	東京都	オンライン (表彰式)	公益財団法人 日本極地研究振興会
10月23日	ユネスコスクール九州・沖縄ブロック大会	福岡県	オンライン	国立大学法人 福岡教育大学・ 文部科学省・ 日本ユネスコ国内委員会
11月12日	SDGs Design International Awards 2022	福岡県	・オンライン ・九州大学 大橋キャンパス	国立大学法人 九州大学大学院 芸術工学研究院 SDGs デザインユニット ・ 九州大学未来 デザイン学センター
11月19日- 11月20日	第21回漂着物学会鹿児島・徳之島大会	鹿児島県	徳之島交流 ひろば ほーらい館他	漂着物学会
1月21日	東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 みちのく SDGs ～スポーツ・音楽・伝統工芸から SDGs を紐解く～	宮城県	オンライン	東北地方 ESD 活動支援センター
3月4日- 3月18日 (連続開催)	令和4年度ローカル SDGs キャンパス・ミーティング	福岡県 等	北九州市 パークサイドビル 会議室	公益財団法人 五井平和財団
3月18日	SDGs 教育実践活動報告ワークショップ	沖縄県	国立大学法人 琉球大学 共通教育棟	国立大学法人 琉球大学

②共催

開催日	行事名	県	会場	主催
8月20日	ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会	福岡県	ホテル ニューガイア オームタガーデン	大牟田市教育委員会